

【4-8 定性的システマティックレビュー】

<b>CQ</b>	1	拳児希望の乳癌患者に対し胚(受精卵)または未受精卵の凍結保存を提案することは推奨されるか？
<b>P</b>	妊孕能低下の可能性のある乳癌薬物療法の開始前に胚(受精卵)または未受精卵の凍結保存をすることが、	
<b>I</b>	乳癌薬物療法の開始前に胚(受精卵)または未受精卵の凍結保存を行う	
<b>C</b>	乳癌の治療や予後については胚(受精卵)または未受精卵の凍結保存をしなかった乳癌患者。妊娠転記につ	
<b>臨床的文脈</b>	Stage IV や再発症例は含まれない。採卵に伴う合併症や妊娠転記については、妊孕性温存をしなかった乳癌患者だけでなく、乳癌以外の同年代の女性と比較することも意義がある。	

<b>O1</b>	妊娠率
<b>非直接性のまとめ</b>	5件のケーススタディ、2件のケースコントロールスタディと1件のコホート研究がある。うち、3件で乳癌以外の癌患者が含まれているが、妊娠転記の比較においてはあまり問題にはならない。
<b>バイアスリスクのまとめ</b>	他癌腫が含まれており、背景因子には大きな差があるが、妊娠転記の比較においてはあまり問題にはならない。
<b>非一貫性その他のまとめ</b>	乳癌患者同士で比較するものと、他がん患者やがんのない同年女性との比較するものがあるが、妊娠転記の比較の上では問題にならないと思われる。
<b>コメント</b>	妊娠転記については、乳癌の対照群との比較は困難で、乳癌以外の女性と比較することも重要。海外では代理母による妊娠・出産が含まれることに注意。

<b>O2</b>	生児獲得率
<b>非直接性のまとめ</b>	5件のケーススタディ、2件のケースコントロールスタディと1件のコホート研究がある。うち、3件で乳癌以外の癌患者が含まれているが、妊娠転記の比較においてはあまり問題にはならない。
<b>バイアスリスクのまとめ</b>	他癌腫が含まれており、背景因子には大きな差があるが、妊娠転記の比較においてはあまり問題にはならない。
<b>非一貫性その他のまとめ</b>	乳癌患者同士で比較するものと、他がん患者やがんのない同年女性との比較するものがあるが、妊娠転記の比較の上では問題にならないと思われる。
<b>コメント</b>	妊娠転記については、乳癌の対照群との比較は困難で、乳癌以外の女性と比較することも重要。海外では代理母による妊娠・出産が含まれることに注意。

<b>O3</b>	手技完了までの期間
<b>非直接性のまとめ</b>	1件ずつのケーススタディとケースコントロールスタディのみの評価で、乳癌以外の癌患者も含まれている。介入について問題ありと判断する。
<b>バイアスリスクのまとめ</b>	他癌腫が含まれていること、採卵の方法、地域差、時代などの背景因子に大きく差があることから、バイアスリスクは大きい。
<b>非一貫性その他のまとめ</b>	非一貫性については評価困難。
<b>コメント</b>	採卵方法、目標とする採卵回数でも、所要日数は異なることが予想される。

<b>O4</b>	手技による合併症
<b>非直接性のまとめ</b>	合併症についての報告が少なく、2件のケーススタディを評価しているが、乳癌以外の患者が含まれており、介入に大きく問題がある。
<b>バイアスリスクのまとめ</b>	合併症についての報告が少なく、2件のケーススタディを評価しているが、乳癌以外の患者が含まれており、バイアスがある。
<b>非一貫性その他のまとめ</b>	合併症についての報告が少なく、OHSS・出血の報告が数例ときわめて少なく、非一貫性は大きい。
<b>コメント</b>	乳癌患者であるために合併症が多いか否かを検討した研究は見当たらなかった。

<b>05</b>	費用
<b>非直接性のまとめ</b>	なし
<b>バイアスリスクのまとめ</b>	なし
<b>非一貫性後その他のまとめ</b>	なし
<b>コメント</b>	費用について述べている論文は認めず、評価困難。

<b>06</b>	治療開始までの期間
<b>非直接性のまとめ</b>	1件ずつのケーススタディとケースコントロールスタディのみの評価で、乳癌以外の癌患者も含まれている。介入について問題ありと判断する。
<b>バイアスリスクのまとめ</b>	他癌腫が含まれていること、採卵の方法、地域差、時代などの背景因子にも差があることから、バイアスリスクは大きい。
<b>非一貫性その他のまとめ</b>	非一貫性については評価困難。
<b>コメント</b>	採卵をすればがん治療開始までの日数が延長することは明らかであり、採卵方法、目標とする採卵個数等によっても、所要日数は異なることが予想される。術後治療開始の遅れそのものよりも、再発率や生存率を比較するべきである。

<b>07</b>	再発率(無病生存期間)
<b>非直接性のまとめ</b>	1件のケーススタディと2件のケースコントロールスタディ、1件のコホート研究を評価しており、介入方法に問題はない。
<b>バイアスリスクのまとめ</b>	バイアスリスクはない
<b>非一貫性その他のまとめ</b>	2件のケースコントロールスタディ、1件のコホート研究において、いずれも同様の傾向をしてしており、非一貫性はない。
<b>コメント</b>	採卵の有無による予後の差はない

<b>08</b>	生存期間
<b>非直接性のまとめ</b>	乳癌患者の採卵の有無による予後を比較した1件のコホート研究を評価しており、介入方法に問題はない。
<b>バイアスリスクの</b>	バイアスリスクはない。
<b>非一貫性その他の</b>	非一貫性はない。
<b>コメント</b>	2008年の報告。